

長崎県・市の歴史的遺産維持管理のためのデータベースの開発

長崎大学大学院 学生会員 ○植木 達也 長崎大学工学部 学生会員 徳重 廣
長崎大学工学部 フェロー 岡林 隆敏

1. はじめに

長崎市の文化財や長崎県の近代化遺産はその歴史的価値や意義から維持・管理を行うことが重要である。本研究では、File Maker を用いて紙媒体である歴史的遺産のデータをまとめ、①データの登録・更新の容易な歴史的遺産情報管理ツール、②Web 上で閲覧可能という機能を備え歴史的遺産の意義や価値などの情報発信ツール、として用いることを目的とした画像データベースの開発を行った。ここでは、画像データベースの実例として「長崎市の文化財データベース」及び「長崎県近代化遺産データベース」について報告する。

2. 長崎市の文化財と長崎県の近代化遺産

文化財とは文化財保護法により、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群と6つの類型に分類・定義している。このようにして文化財は、重要なものを指定（伝統的建造物群は選定）してその保存・活用を図っている。長崎市の文化財の一覧を表-1に示す。

これに対し近代化遺産とは、近代的手法によって幕末期から第2次世界大戦期までに造られた建造物（各種の構築物、工作物を含む）で、産業・交通・土木に関わる近代の文化財を包括的に表す言葉である。具体的には、造船所・製糸工場・製鉄所などの産業施設、橋梁・トンネル・道路・港湾などの鉄道施設、道路橋・灯台・船舶などの交通施設、上下水道・ダム・発電所などの土木施設を指し、建造物と一体的に価値を形成している設備や機械なども含める。長崎県の近代化遺産の一覧を表-2に示す。

3. 長崎市の文化財データベースについて

長崎市文化財データベースの全体構成を図-1に示す。検索項目は「種別検索」、「地図検索」、「総検索」と3種類設けてありユーザーが利用し易い作りになっている。図-2は検索結果画面であり、文化財名、種別、指定年月日、所在地、所有者、メモ、写真、広域地図、詳細図の9項目を記載してある。検索項目毎にレコードを変えていかなければならないが、script を用い各検索項目に必要なデータを抽出できるように設定している。地図検索では、地図に予め印をつけておき、そこに script を配置することによりレコードの抽出と検索結果画面の表示をできるようにしている。

長崎市では市町村合併により平成17年1月4日に旧7町が合併し、新たな長崎市が誕生した。平成10年度に長崎市教育委員会が発行された「長崎市の文化財」では、長崎市の文化財の総数は176件であった。しかし市町村合併により、新たに長崎市に加わった西彼杵郡伊王島町、外海町、琴海町、香焼町、高島町、三和町、野母崎町の7市町村分の文化財が新たに長崎市の文化財として追加された事に伴い、データの更新が必要になり、新たに61件のデータを追録した。今回データベースを制作した平成18年時点で計237件になっている。

4. 長崎県近代化遺産データベースについて

長崎県近代化遺産データベースの全体構成を図-3に示す。検索項目は「建造物検索」、「地図検索」、「精選近代化遺産」の3種類を設けてある。図-4は検索結果画面であり、近代化遺産名、所在地、旧所在地、構造・

表-1 長崎市の文化財種類一覧

文化財種類	件数
国宝	3
国指定重要文化財	25
国指定無形民俗文化財	1
国指定史跡	6
国指定天然記念物	2
国認定旧重要伝統美術品	4
国選定重要伝統的建造物群保存地	2
県指定有形文化財	30
県指定有形民俗文化財	1
県指定無形文化財	1
県指定無形民俗文化財	4
県指定史跡	15
県指定名勝	1
県指定天然記念物	12
市指定有形文化財	48
市指定有形民俗文化財	6
市指定無形民俗文化財	8
市指定史跡	36
市指定天然記念物	22
町指定文化財	10
計 (平成18年度 現在)	237

表-2 長崎県の近代化遺産種類一覧

建造物種類	件数
土木建造物	110
鉄道施設	72
軍事施設	22
炭坑施設	7
建築物	290
計	506

形式、建設年、解説、写真の7項目を記載している。このデータベースでも長崎市の文化財データベースのような script を用いている。

この長崎県近代化遺産データベースは、全国で行われた日本近代化遺産総合調査に基づき、平成7年から9年にかけて長崎県で行われた近代化遺産調査を元にして、その調査結果を長崎県教育委員会が平成10年に「長崎県近代化遺産総合調査報告書」として発行した資料を再整理・電子データ化することにより制作したものである。

近代化遺産は将来的に文化財登録をすべきものが多く、そのためにデータの更新を定期的に行っており、維持・管理を行っていく必要がある。

5. データベースの Web 上での活用

今回制作した長崎県近代化遺産データベース及び長崎市の文化財データベースは、File Maker で制作したものであり、このソフトは File Maker ユーザーと Web ユーザーの両方に適したレイアウトを制作することができる。これにより、Web 上で制作したデータベースを閲覧することができるので単なる情報管理ツールとしてだけではなく、インターネットで閲覧できる情報発信ツールとしての役割を持たせるといえることが可能である。

6. まとめ

本研究の成果をまとめると以下ようになる。

- 1) 長崎県の文化財データベースでは、市町村合併による旧市町村の新たな文化財のデータを追加更新することにより、大規模なものになった。これにより文化財情報の管理やデータの更新が容易になった。
- 2) 長崎県の近代化遺産データベースでは、県内の近代化遺産に関するデータの整理を行い、情報管理・発信の基礎を制作することができ、また、将来文化財登録するための情報管理ツールとして機能するものであると考えられる。
- 3) 上記の2データベース共に、付加価値として Web 機能を付け加えたことにより、インターネットでの公開による情報発信ツールとしても有効活用できるものとして期待できる。

以上より、歴史的遺産の情報管理・活用をすることが容易になり長崎にある文化財、近代化遺産の維持・管理に役立つためのツールとして利用することができるようになった。

- 【参考文献】 1) 長崎県近代化遺産総合調査報告書, 長崎県教育委員会, 平成10年
2) 長崎市の文化財, 長崎市教育委員会, 平成10年

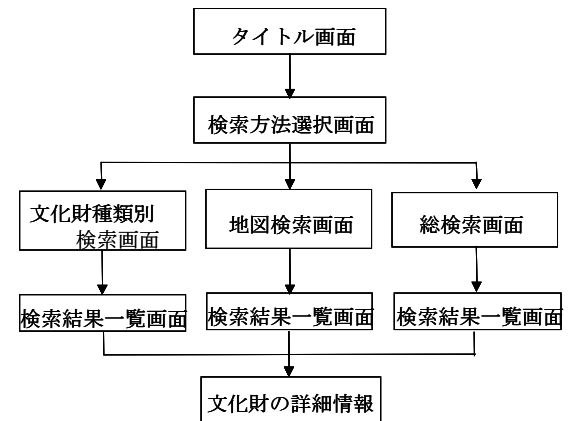


図-1 長崎市の文化財データベースの構成

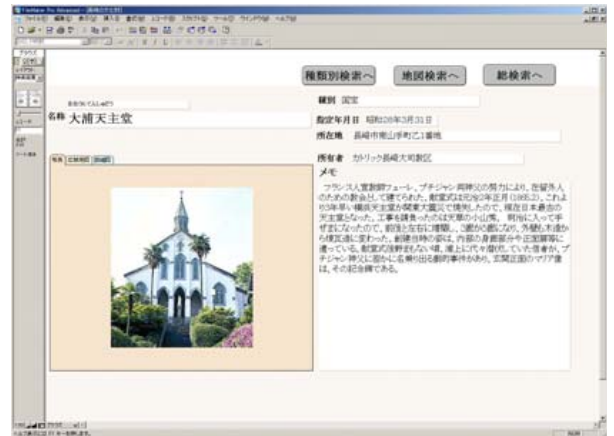


図-2 長崎市の文化財データベース検索結果画面

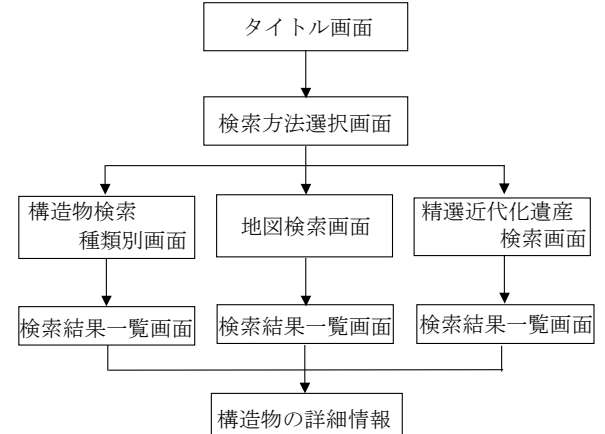


図-3 長崎県近代化遺産データベースの構成

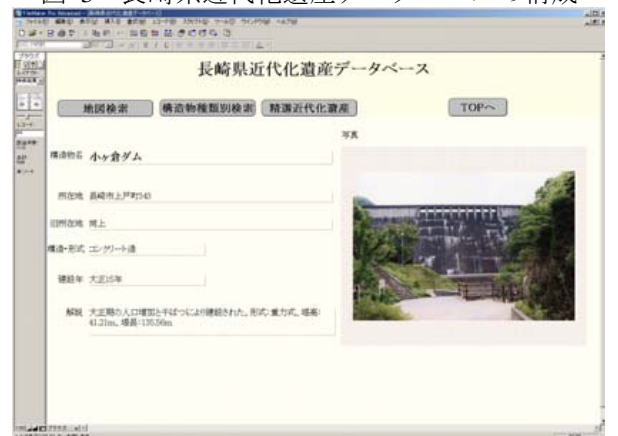


図-4 長崎県近代化遺産データベース検索結果画面